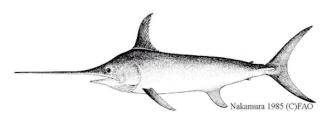
メカジキ インド洋

Swordfish, Xiphias gladiuss



管理•関係機関

インド洋まぐろ類委員会 (IOTC)

最近の動き

2012年にソマリア沖の海賊活動が収束したため、総漁獲量が急増して、2015年には過去最大漁獲量(4.2万トン)を記録した。2014年よりインドネシアが台湾を抜いて最大の漁業国となった。

生物学的特性

■体長・体重:最大 455 cm (眼後叉長)・550 kg

■寿 命:30歳以上

■成熟開始年齢:雌(6~7歳)、雄(1~3歳)

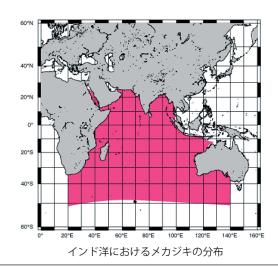
■産卵場:ソマリア沖、ジャワ島沖

■索餌場:マダガスカル東南部沖合、南アフリカ沖合域

及び豪州西部・南部沖 ■食 性:魚類、頭足類 ■捕食者:小型歯鯨類、さめ類

利用・用途

刺身、寿司、切り身(ステーキ、煮付け)



漁業の特徴

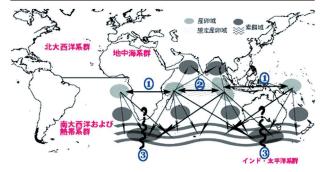
本種は、日本及び台湾のまぐろ類を対象としたはえ縄漁業の混獲として(台湾は時には対象種として)、1950年代より漁獲されている。1990年代からは、沿岸国・島しょ国(スリランカ、インドネシア、レユニオン、インドほか)がメカジキを対象とした操業を開始した。また、2000年前後よりスペイン及びポルトガルのメカジキはえ縄漁船が遠洋漁業に参入した。

漁獲の動向

本種は、日本及び台湾のまぐろ類を対象としたはえ縄漁業 の混獲として(台湾は時には対象種として)、1950年代よ り漁獲され始め、1990年初めまでの約40年間に総漁獲量 は徐々に増加し、1992年には1.6万トンに達した。1990 年代に入ると、沿岸国や島しょ国がメカジキも対象とした 操業を開始し、さらに台湾の漁獲努力量が増加したため、 総漁獲量は1993年には2.6万トンへと増加した。総漁獲 量は、その後も増加を続け、1998年に3.8万トンに達し、 第1回目のピークを記録した。しかし、1999年から総漁 獲量は減少し、2001年には3.2万トンまで落ち込んだ。こ の頃よりスペイン及びポルトガルのメカ縄船が遠洋漁業に 参入したため、2002年より総漁獲量は再度増加し、2004 年に 4.0 万トンと過去最大の漁獲量 (第2回目のピーク) を記録した。しかし、2000年半ばからソマリア沖の海賊の 活動範囲が拡大し、まぐろはえ縄船が他の大洋へ移動し漁 獲努力量が減少したため、総漁獲量は 2005 年から減少し 2011年には2.2万トンまで落ち込み、1992年以来19年 間で最低の漁獲量となった。2012年に海賊活動が収束し、 一部はえ縄船(台湾・中国)がソマリア沖へ戻りつつある ため、総漁獲量は2012年以降急増し2015年には4.2万 トンとなり過去最大漁獲量を記録した。2014年と2015年 はインドネシアの漁獲量が急増しそれぞれ 1.1 万トン・1.4 万トンを記録し、台湾漁獲量の2倍近くになりメカジキの 最大漁業国となった。

資源状態

資源評価の結果は不確実性が多く、親魚量などは信頼のある結果が得られなかったので、以下相対値で示した。SS3 によるインド洋全域の資源評価(1950 \sim 2013 年データ使用)の結果(SSB/SSB_{MSY}=3.1、 F/F_{MSY} =0.34)、資源状況は安全な状態となっている。しかし 2015 年の漁獲量(4.2 万トン)は MSY(3.9 万トン)を超えた。



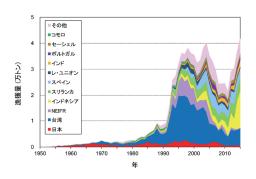
インド洋におけるメカジキの産卵域及び索餌域 (IFREMER 2006 改変)

管理方策

メカジキを漁獲対象とする漁船隻数を 2007 年水準に制限する措置が導入されている。なお、2015 年の漁獲量 (4.2 万トン) が MSY (3.9 万トン) を超えたため、2016 年の科学委員会は、今後漁獲量は MSY (3.9 万トン) を超えるべきでないと年次会合へ勧告した。

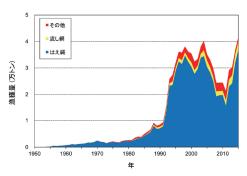
資源状態のまとめ

- ■資源評価の結果には不確実性が多く、親魚量は信頼の ある結果が得られなかったので、以下相対値で示した。
- SS3 による資源評価では親魚量は MSY 水準の約3倍で Fは MSY 水準を下回り、2013年における資源は安全な状況であった。しかし2015年の漁獲量(4.2万トン)は MSY(3.9万トン)を超えたので資源状態は悪化している。

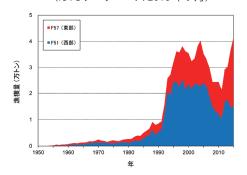


インド洋におけるメカジキの国別漁獲量(1950 ~ 2015 年) (IOTC データベース 2016 年 9 月)

NEIFR: Not Elsewhere Included FR Fresh (生鮮まぐろ漁船)



インド洋におけるメカジキの漁法別漁獲量(1950 ~ 2015 年) (IOTC データベース 2016 年 9 月)

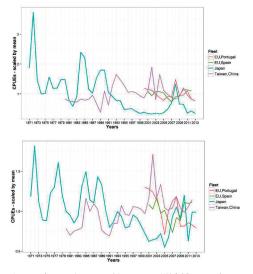


インド洋におけるメカジキの FAO 海域別漁獲量(1950 ~ 2015 年) (IOTC データベース 2016 年 9 月)

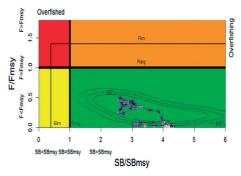
管理方策のまとめ

- ■メカジキを漁獲対象とする漁船隻数を 2007 年水準に 制限
- 2016 年科学委員会は、今後漁獲量は MSY(3.9 万トン) を超えるべきでないと年次会合へ勧告した。

メカジキ(インド洋)の資源の現況(要約表)	
資源水準	中 位
資源動向	減少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	2.1 万~4.2 万トン 最近(2015)年:4.2 万トン 平均:3.2 万トン(2011 ~ 2015 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	576 ~ 770 トン 最近(2015)年:590 トン 平均:643 トン(2011 ~ 2015 年)
最新の資源評価年	2014年
次回の資源評価年	2017年



標準化されたメカジキはえ縄 CPUE (上図:インド洋全域、下図:南西インド洋) 赤:ポルトガル、黄緑:スペイン、緑:日本、紫:台湾



インド洋全域における SS3 による資源評価の結果 (資源状況の変遷を示す神戸プロット)